

## 奄美諸島北部民謡における声域と音階構造

## — 八月踊り歌にみる旋律構造 —

西元 久明

**The Range of Voice and the Structure of Musical Scale  
in the folk songs of the Northern Amami Islands**  
— The Melody Structure of the Hachigatsu-odori songs —

Hisaaki NISHIMOTO

**Abstract**

In the folk songs of the northern Amami Islands, the Shamisen is the only musical instrument used to describe musical intervals. It is therefore thought that the tuning of the Shamisen in relation to musical intervals had a strong influence on the musical and melody structure of their folk songs as well as their range of voice. This idea is generally believed despite the fact that the use of the Shamisen did not spread throughout the islands for some time.

This paper investigates the relationship between the tuning and melody structures of the Shamisen and the Hachigatsu-odori songs which do not use the Shamisen.

キーワード：奄美諸島北部民謡，八月踊り歌，声域，音階構造，旋律構造

## 目次

1. 本研究の課題
2. 課題の説明
  - (1) 声域と旋律構造
  - (2) 三味線の調弦音程と勘所にみる旋律構造
3. 分析
  - (1) 歌唱の実際と核音にみる旋律構造
  - (2) 旋律構造と音階による分類
4. 考察

**1. 本研究の課題**

2009年の拙論「奄美諸島北部の民謡における三味線の調弦の音程を枠にした音階構造」では奄美諸島北部（徳之島以北）の民謡において、音程を規定できる楽器は三味線のみであると述べた<sup>1</sup>。そのため三味線の調弦音程は、この地域の民謡の音階構造に強い影響を及ぼしていると考えられる。しかし奄美諸島に三味線がいつ琉球から伝わったかの明確な年代は不明であ

1 西元久明：169～170頁。

り<sup>2</sup>、また数十年前まで一般的に普及していたわけではない<sup>3</sup>。そこで今回、本論では三味線を伴わない八月踊り歌<sup>4</sup>の音階構造を、小泉文夫の旋律構造<sup>5</sup>の概念を用いて検討することで三味線の調弦音程との関係性を探る。

## 2. 課題の説明

### (1) 声域と旋律構造

奄美諸島北部民謡は音組織的に律音階と民謡音階が多く、また律音階の変種もみられる<sup>6</sup>。小泉文夫により民謡・都節・律・琉球の4種類に分類された日本の伝統音楽の音階は、1オクターヴの尺度で説明されたが<sup>7</sup>、ここで本論が強調したいのは、わらべ歌や子守歌を除いて奄美諸島北部民謡の歌唱の声域は、ほとんどが1オクターヴを超えるということである。<sup>8</sup>『日本民謡大観（沖縄奄美）奄美諸島篇』（以下、『奄美諸島篇<sup>8</sup>』）において、奄美諸島北部の三味線を伴う座興歌・遊び歌は、楽譜が掲載されている67曲中の56曲が1オクターヴ半から2オクターヴの音域をもつのである<sup>9</sup>。その広い音域のなかでテトラコルドやペンタコルドの重なりは、これまで重視されてこなかったのではないだろうか。小泉は「核音による旋律構造の種類<sup>10</sup>」の検討で6種類の旋律構造を挙げている。以下ではまず、そのうちの5種類について概要を示す。

エンゲ・メロディー型：

単に音域のせまいものという意味ではなく、「1つの核音しか持たない旋律法」。

中には のテトラコルド型より広音域にまたがることもありうる。

低音                      核音                      高音

以下に核音なし              以上に核音なし

テトラコルド型：

旋律中のもっとも中核的な2つの核音が、4度音程にある。

低音                      核音              核音                      高音

以下に核音なし              4度              以上に核音なし

ペンタコルド型：

旋律中のもっとも中核的な2つの核音が、5度音程にある。

2 久万田晋：40頁。

3 奄美諸島において三味線はごく最近まで、裕福な家庭の所有物であったという。（南日本新聞社：56頁）。

4 本論の観点に即して八月踊り歌の特徴を挙げれば、徳之島での例外はあるものの、基本的に男女が異なる音高で同じ旋律を歌い継ぎ、音階は律音階系で特に律音階の変種が最も多い（日本放送協会編：168頁）。

5 小泉文夫：127～134頁。

6 日本放送協会編：10頁。

7 小泉：249頁。

8 東京芸術大学民族音楽ゼミナール編：同書の略称に従う。

9 日本放送協会編：454～643頁。2オクターヴは「322 雨黒み節」, 「327 諸鈍長浜節」のみ2曲である。

10 小泉：127～134頁。

低音                      核音              核音                      高音  
 以下に核音なし              5度              以上に核音なし

ブラガル旋法型：

低音域からテトラコルド（4度）+ペンタコルド（5度）と重なったもの。

低音                      核音              核音              核音                      高音  
 以下に核音なし              4度              5度              以上に核音なし

正格旋法型：

低音域からペンタコルド（5度）+テトラコルド（4度）と重なったもの。

低音                      核音              核音              核音                      高音  
 以下に核音なし              5度              4度              以上に核音なし

小泉は上記 から の5種類を重視しながら、最後の6種類目を「広音域型」と分類している。

広音域型というのは、大して独立した意味はない。要するに核音が4つ以上含まれるものであって、中心にテトラコルドがあって、その上下にペンタコルドのあるもの、その逆に中心にペンタコルドがあって、その上下にテトラコルドがあるものなどがある。[中略]しかし広音域型は結局、いくつかのより本質的な部分に要約できるので、むしろテトラコルドがいかに積み重ねられて、音域を拡大して行くかというばあいの分析の素材となるという点で注目される<sup>11)</sup>。

つまり広音域型とは以下のように説明できる。

広音域型：

低音                      核音              核音              核音              核音                      高音  
 以下に核音なし              4度              5度              4度              以上に核音なし

もしくは

低音                      核音              核音              核音              核音                      高音  
 以下に核音なし              5度              4度              5度              以上に核音なし

「核音が4つ以上」とは、このように1オクターヴ半以上の音域のことであり、旋律構造の検討において小泉は実際の歌唱の音域、すなわち声域は「大して独立した意味はない」というように問題としていないことを示しているようである。しかし、後半述べられているように、広音域型は複数のテトラコルドやペンタコルドの重なりをもつ旋律構造の検討には重要であるとされている。座興歌・遊び歌における実際の声域は、1オクターヴ半を超えることから、広音域型は検討の余地があるのではないだろうか。

11 小泉：134頁。

## (2) 三味線の調弦音程と勘所みる旋律構造

筆者の知る限りにおいて、奄美諸島北部民謡における三味線の勘所は、ヤマトや琉球のものに比べ、シンプルであるといつて差し支えないと思われる。三味線を持つ左手の親指と人差し指を、竿と乳袋の境目の部分に置き、中指を使わず、人差し指と薬指で長2度と短3度の音程を勘所として分割することにより、律音階と民謡音階という、この地域で最も多く使用される音階を共通の運指で演奏することができるからである。ちなみに両音階とともに若干みられる律音階の変種は、中指を使わないことから、第2弦上の薬指を人指し指側に移動する、もしくは人差し指を薬指側に移動する。

以下では2009年の拙論<sup>12</sup>を参考に、本調子の調弦音程と1オクターヴ半の音域で、核音と調弦音程および勘所を、律音階と律音階の変種、民謡音階で示す。弦の解放音についてはそれらの名称を示す。

## 律音階の核音と調弦音程および勘所



第1弦		第2弦		第3弦	
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	短3度
核音		核音		核音	核音
	完全4度		完全5度		完全4度

## 律音階の変種の核音と調弦音程および勘所



第1弦		第2弦		第3弦	
長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	長2度
核音		核音		核音	核音
	完全4度		完全5度		完全4度

12 西元：173～180頁。

民謡音階の核音と調弦音程および勘所



第1弦		第2弦		第3弦			
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	長2度
核音		核音		核音			核音
	完全5度		完全4度			完全5度	

広音域型の旋律構造に照らし合わせれば、律音階と律音階の変種がテトラコルド+ペンタコルド+テトラコルド（本論ではT P T型とよぶ）、民謡音階がペンタコルド+テトラコルド+ペンタコルド（P T P型）の構造となっていることがわかる。そこでこれらの構造が、八月踊り歌に適用できるか、またそのことで三味線の調弦音程との関係性は見出されるのかを、次に分析する。

### 3. 分析

以下では『奄美諸島篇』に掲載された八月踊り歌を分析する。

徳之島を除いた奄美諸島北部において、八月踊り歌では基本的に男女が異なる音高で同じ旋律を歌う。多くの曲では女声が男声の完全4度上を歌う場合が多いので、それらについての音高差についての記述は省略し、完全4度以外の音高差の場合にのみ解説に示す。また基本的に男女どちらかの歌いだされた方を採用するが、広音域旋律構造も重視するため、音域の広いものを採用する。重要な核音である終止音は太字の下線とゴシック体で、終止音ではない核音は、明確に現れるもののみ細い下線で示す。また八月踊り歌は歌い継ぎが激しい場合、男女どちらかの終止音が不明確な場合があるので、明確な方を採用する。律音階、律音階の変種、民謡音階、民謡音階の変種についてはそれぞれ「律」、「律変」、「民」、「民変」とし、テトラコルド、ペンタコルドについては「T」、「P」の略称で示す。

#### (1) 歌唱の実際と核音にみる旋律構造

##### 107 ソラサンマンエ（笠利・佐仁）

ド	<u>レ</u>	ミ	<u>ソ</u>	ラ	ド
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
		律T			

##### 108 ねんごろじょ（笠利・佐仁）

<u>レ</u>	ミ	<u>ソ</u>	ラ	ド	<u>レ</u>	ミ
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	
律T			律P			

109 ヤソレノトイトイ (笠利・佐仁) 楽譜掲載なし。

110 屋仁川のいぶ (笠利・佐仁) 楽譜掲載なし。

111 祝いつけ (笠利・佐仁)

ラ	<u>ド</u>	レ	<u>ファ</u>	ソ	ラ	<u>ド</u>	レ
短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
	律変T			律変P			

112 赤木名観音堂 (笠利・用)

<u>ソ</u>	ラ	<u>ド</u>	レ	<u>ファ</u>	ソ	ラ	<u>ド</u>
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
律T			律P				

113 浦げどおり (笠利・用)

シ	<u>レ</u>	ミ	<u>ソ</u>	ラ	シ	<u>レ</u>
短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
律変T			律変P			

114 喜界米の飯 (笠利・用)

ド	<u>ファ</u>	ソ	ラ	<u>ド</u>	レ
完全4度	長2度	長2度	短3度	長2度	
律変T		律変P			

115 按司そえ (~塩道長浜・花染・エンヤコレ) (笠利・大笠利)

		<u>レ</u>	<u>ソ</u>	ラ	シ	
		完全4度	長2度	長2度		
		律変T				
<u>ラ</u>	シ	<u>レ</u>	ミ	ソ	<u>ラ</u>	シ
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	
律T			律P			

レがミより頻度が高いため核音とした。

(塩道長浜)

レ	<u>ミ</u>	ソ	ラ	シ
長2度	短3度	長2度	長2度	
民T				

(花染)

シ	<u>レ</u>	ミ	<u>ソ</u>	ラ	シ	<u>レ</u>
短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
律変T			律変P			

(エンヤコレ)

ソ	<u>ラ</u>	シ	<u>レ</u>	ミ	ソ
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
律T					

## 116 おぼこれ (笠利・大笠利)

ソ		ド		レ		ミ		ソ		ラ
	完全 4 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度	
	律変 T						律変 P			

## 117 庭の糸柳 (笠利・大笠利) 楽譜掲載なし。

## 118 人が嫁女 (~ 芦花部一番・うんにゃだる) (笠利・大笠利)

レ		ソ		ラ		シ		レ		ミ
	完全 4 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度	
	律変 T						律変 P			

(芦花部一番)

レ		ソ		ラ		シ		レ		ミ
	完全 4 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度	
	律変 T						律変 P			

(うんにゃだる)

シ		レ		ソ		ラ		シ		レ
	短 3 度		完全 4 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度	
			律変 T				律変 P			

## 119 今の風雲 (笠利・宇宿)

ド		レ		ミ		ソ		ラ		ド		レ		ミ
	長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度	
					律 T				律 P					

音高差は男声と女声で完全 5 度である。

## 120 宇宿踊り (笠利・宇宿)

ド		ファ		ソ		ラ		ド		レ
	完全 4 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度	
	律変 T				律変 P					

## 121 岬トンバラ (笠利・宇宿)

ソ		ラ		シ		レ		ミ		ソ
	長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		短 3 度	
			律変 P				律変 T			

音高差は男声と女声で完全 5 度である。

## 122 あまださがりゃ (龍郷・秋名)

ド		レ		ファ		ソ		ラ
	長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度	

音高差は男声と女声で 1 オクターヴである<sup>13</sup>。音域が狭く、またレが核音みられる箇所もあり、音階は律音階か、その変種か不明である。低音で一箇所のシ は捨象する。

13 日本放送協会編：200頁。

123 曲りよ高頂 (龍郷・秋名)

ソ		ド		レ		ミ		ソ
	完全4度		長2度		長2度		短3度	
	律変T				律変P			
<u>フ</u>	ソ	ラ	ド	レ				
長2度	長2度	短3度	長2度					
	律変P							

124 あがん村 (龍郷・戸口)

<u>フ</u>	ソ	ラ	ド	レ	<u>フ</u>
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
		民P			

125 高さの坂 (龍郷・戸口)

レ	ミ	ソ	ラ	ド	レ	ミ
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	長2度
	律T		律P			
レ	ミ	ソ	ラ	ド	レ	ミ
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	長2度
			律変T			

音高差は男声と女声で完全5度である<sup>14</sup>。律音階とその変種が交錯する。

126 浜千鳥 (龍郷・戸口)

ド	<u>フ</u>	ソ	ラ	ド
完全4度	長2度	長2度	短3度	
律変T		律変P		

音高差は男声と女声で完全5度である。

127 おせはだり (名瀬・小湊)

ド	レ	<u>フ</u>	ソ	ラ	ド	レ	<u>フ</u>
長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
	律変T		律変P			律変T	

128 焼酎の花酒 (名瀬・小湊)

ソ	ラ	ド	レ	<u>フ</u>	ソ	ラ
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	
	律T		律P			

129 旗持ち踊り (名瀬・小湊)

<u>フ</u>	ソ	ラ	ド	レ	<u>フ</u>
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
		律T			

14 日本放送協会編：205頁。



130 喜界湾泊 (名瀬・根瀬部)

ド	ファ	ソ	ラ	ド	レ	ソ
完全4度	長2度	長2度	短3度	長2度	完全4度	
律変T		律変P		律変T		
				ド	レ	ミ
				長2度	長2度	短3度
					律変P	

律音階の変種だが高音部で「ド レ ミ ソの5度枠」が重なり、中間音のラ、レ、ミが下がるのは都節音階化の傾向を感じさせるといふ<sup>15</sup>。

131 しゅんかねくわ (名瀬・根瀬部)

ラ	ド	レ	ファ	ソ	ラ	ド	レ
短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
		律P			律T		

132 にしの実久 (名瀬・根瀬部)

ソ	ド	レ	ファ	ソ	ラ
完全4度	長2度	短3度	長2度	長2度	
		律変T			

低音のソも核音の可能性がある。

133 いきんとう (~天のひらま主) (住用・川内)

		ミ	ソ	ラ	シ	レ	ミ
		短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
			民T		民P		
ド	レ	ミ	ソ	ラ			
長2度	長2度	短3度	長2度				
	律変P						

(天のひらま主)

ド	レ	ミ	ソ	ラ	ド
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
	律変P			律変T	

音高差は男声と女声で1オクターヴであり、実音の音高は元歌と付随旋律で異なる<sup>16</sup>。

134 海の笹草 (住用・川内) 楽譜掲載なし。

135 坂元 (住用・川内)

ソ	ラ	ド	レ	ミ	ソ
長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
	律変T		律変P		

15 日本放送協会編：211頁。

16 日本放送協会編：215頁。

136 おぼこり (住用・西仲間)

ソ           ラ           ド           レ           ミ           ソ  
 長2度        短3度        長2度        長2度        短3度  
 律変 T                                           律変 P

(付随旋律)

ミ           ソ           ラ           ド           レ           ミ  
 短3度        長2度        短3度        長2度        長2度  
 律 P

137 にぎたい若松様 (住用・西仲間)

㇗           ソ           ラ           ド           レ           ㇗  
 長2度        長2度        短3度        長2度        短3度  
 律 T

(付随旋律)

㇗           ソ           ラ           ド           レ  
 長2度        長2度        短3度        長2度  
 律変 P

実音の音高は元歌と付随旋律で異なる<sup>17</sup>。

138 めんちゃま (住用・西仲間)

ド           ㇗           ソ           ラ           ド           レ           ㇗  
 完全4度        長2度        長2度        短3度        長2度        短3度  
 律 P                                           律 T

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>18</sup>。

139 徳の山岳 (住用・西仲間)

ミ           ソ           ラ           ド           レ           ミ           ソ  
 短3度        長2度        短3度        長2度        長2度        短3度  
 律変 T                                           律変 P

140 足なれ (大和・今里)

ラ           ド           レ           ㇗           ソ           ラ  
 短3度        長2度        短3度        長2度        長2度  
 律 P

141 道節 (大和・今里)

㇗           ソ           ラ           ド           レ           ㇗           ソ           ラ           ド  
 長2度        長2度        短3度        長2度        短3度        長2度        長2度        短3度  
 律 T                                           律 P                                           律 T

17 日本放送協会編：222頁。  
 18 日本放送協会編：223頁。

142 柳葉 ( ~ [柳葉でする歌] ) (大和・今里)

ソ			ド			<u>レ</u>		ミ		ソ		ラ
		完全 4 度			長 2 度			長 2 度			短 3 度	長 2 度
		律 P						律 T				

男声と女声で 1 オクターヴと長 3 度異なる特殊な音高差である<sup>19</sup>。律音階である<sup>20</sup>。

( [柳葉でする歌] )

<u>レ</u>		ファ		<u>ソ</u>		ラ		ド		<u>レ</u>
		短 3 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度
		民 T						民 P		

終止音はレと判定した。音高差は男声と女声で 1 オクターヴである<sup>21</sup>。

( [柳葉でする歌] )

ファ		<u>ソ</u>		ラ		<u>ド</u>		レ		ファ		<u>ソ</u>		ラ
		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度
		律 T								律 P				

音高差は男声と女声で 1 オクターヴである<sup>22</sup>。

143 烏んや (宇検・湯湾)

ラ		<u>ド</u>		レ		ファ		<u>ソ</u>		ラ		<u>ド</u>
		短 3 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度
		律 P								律 T		

音高差は男声と女声で 1 オクターヴである<sup>23</sup>。

144 くるまぐわ (宇検・湯湾)

ド		レ		<u>ファ</u>		ソ		ラ		ド		レ
		長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度
		律変 T								律変 P		

145 さんやま (宇検・湯湾)

ファ		<u>ソ</u>		ラ		<u>ド</u>		レ		ファ		<u>ソ</u>
		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度
		律 T								律 P		

146 上り下り (宇検・湯湾)

ド		レ		<u>ファ</u>		ソ		ラ		ド		レ
		長 2 度		短 3 度		長 2 度		長 2 度		短 3 度		長 2 度
		律変 T								律変 P		

レとラが常に下がり気味で、都節音階に近く感じられるという<sup>24</sup>。

19 日本放送協会編：233頁。

20 日本放送協会編：233頁。

21 日本放送協会編：231頁。

22 日本放送協会編：222頁。

23 日本放送協会編：235頁。

24 日本放送協会編：239頁。

## 147 はな染 (宇検・湯湾)

<u>ラ</u>	ド	レ	<u>ミ</u>	ソ	ラ
短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
	民変P			民変T	
<u>レ</u>	<u>ファ</u>	ソ	<u>ラ</u>	ド	レ
短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
	民変P		民変T		

## 148 あさんダラダラ (宇検・芦検)

ラ	ド	<u>レ</u>	<u>ファ</u>	ソ	ラ
短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	
	民変T		民変P		

## 149 亀助姿 (宇検・芦検)

ソ	ラ	<u>ド</u>	レ	<u>ファ</u>	ソ	ラ	ド
長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
		律変T			律変P		

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>25</sup>。律音階の変種である<sup>26</sup>。

## 150 かんつめ (宇検・芦検)

<u>ファ</u>	ソ	ラ	<u>ド</u>	レ	<u>ファ</u>	<u>ソ</u>	ラ	ド
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
	律T			律P			律T	

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>27</sup>。

## 151 実久うくい (宇検・芦検)

レ	<u>ファ</u>	ソ	ラ	ド	レ
短3度	長2度	長2度	短3度	長2度	
	律変P				

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>28</sup>。高音で短音のミは捨象する。

## 152 いしゃご (宇検・生勝)

<u>ド</u>	<u>ファ</u>	ソ	ラ	ド	レ
完全4度	長2度	長2度	短3度	長2度	
律変T		律変P			

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>29</sup>。律音階の変種であるが、中間音のラとレが下がり気味で、特に女声ではこの傾向が著しい<sup>30</sup>。

25 日本放送協会編：243頁。

26 日本放送協会編：244頁。

27 日本放送協会編：245頁。

28 日本放送協会編：247頁。

29 日本放送協会編：249頁。

30 日本放送協会編：250頁。

153 天のしらしゅ (宇検・生勝)

楽譜掲載なし。

154 ヨーハレ (宇検・生勝)

<u>ファ</u>	ソ	ラ	<u>ド</u>	レ	<u>ファ</u>	ソ	ラ
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	長2度	長2度	長2度
		律T		律T			

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>31</sup>。ソ ラ ド, ド レ ファの律のテトラコルドがコンジャンクトしたものである<sup>32</sup>。

155 芦検ポーポーチェ (宇検・宇検)

<u>ド</u>	レ	ファ	ソ	ラ	ド				
長2	短3度	長2度	長2度	短3度					
	律P			律T					
			ソ	ラ	ド	レ	ミ	ソ	
				長2度	短3度	長2度	長2度	短3度	
					律P			律T	

音高差は男声と女声で1オクターヴである。律音階である<sup>33</sup>。

156 うしゃげしゃげ (宇検・宇検)

楽譜掲載なし。

157 ドンドン節 (宇検・宇検)

ド	レ	ミ	<u>ソ</u>	ラ	ド
長2度	長2度	短3度	長2度	短3度	
	律変P			律変T	

律音階の変種である<sup>34</sup>。

158 しとてんぐわ (宇検・部連)

<u>ファ</u>	ソ	ラ	ド	レ	
長2度	長2度	短3度	長2度		
	律変P				
		ラ	ド	レ	ミ
		短3度	長2度	長2度	

ファは上行形, ミは下行形にのみ現れる。

159 やんめえ坊 (宇検・部連)

<u>ド</u>	ファ	ソ	ラ	ド	レ
完全4度	長2度	長2度	短3度	長2度	
	律P		律T		

律音階である<sup>35</sup>。

31 日本放送協会編：252頁。

32 日本放送協会編：253頁。

33 日本放送協会編：255頁。

34 日本放送協会編：257頁。

35 日本放送協会編：260頁。



168 諸鈍長浜 (瀬戸内・諸鈍)

ド		レ		ミ		ソ		ラ		ド		レ		ミ		ソ
	長2度		長2度		短3度		長2度		短3度		長2度		長2度		短3度	
				律T				律P						律T		

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>38</sup>。

169 ホーエラエー (瀬戸内・諸鈍)

ファ		ソ		ラ		ド		レ		ファ
	長2度		長2度		短3度		長2度		短3度	

律音階か民謡音階か不明である。

170 烏ハイヨ (喜界・阿伝)

ド		レ		ファ		ソ		ラ		ド		レ		ファ
	長2度		短3度		長2度		長2度		短3度		長2度		短3度	
			律P						律T					

ファが核音とも考えられるが、カケ声に鑑みてソと解釈した。

171 ひゆえー (喜界・阿伝)

ド		ファ		ソ		ラ		ド		レ
	完全4度		長2度		長2度		短3度		長2度	
		律P					律T			

172 マーターティーパー (喜界・中里)

ド		レ		ファ		ソ		ラ		ド		レ		ファ
	長2度		短3度		長2度		長2度		短3度		長2度		短3度	
		律変T					律変P					律変T		

高音で短音のミは捨象する。

173 赤牛ぐわ (喜界・小野津)

ソ		ラ		ド		レ		ファ		ソ		ラ		ド
	長2度		短3度		長2度		短3度		長2度		長2度		短3度	

律音階か、その変種か不明である。

174 塩道長浜 (喜界・小野津)

ラ		ド		レ		ファ		ソ		ラ		ド		
	短3度		長2度		短3度		長2度		長2度		短3度			
												民T		

175 ソラヨイヨイ (～諸鈍長浜) (徳之島・花徳)

女：ミ		ソ		ラ		シ		レ		ミ
	短3度		長2度		長2度		短3度		長2度	
							律変P			

核音がラの可能性もあるが、ハヤシの音に鑑みて核音とした。

38 日本放送協会編：273頁。

男：ラ シ レ ミ ソ ラ シ  
 長2度 短3度 長2度 短3度 長2度 長2度  
 民P 民T

男女の旋律は異なる<sup>39</sup>。

(諸鈍長浜)

ファ ソ ラ ド レ ファ  
 長2度 長2度 短3度 長2度 短3度  
 律T

176 東れひがしま (徳之島・井之川)

楽譜掲載なし。

177 朝潮みちやがり (徳之島・井之川)

ド レ ファ ソ ラ ド レ  
 長2度 短3度 長2度 長2度 短3度 長2度  
 民T 民P

178 あったら七月 (徳之島・井之川)

ファ ソ ラ ド レ ファ ソ~ラ, ド  
 長2度 長2度 短3度 長2度 短3度 長2度  
 律T 律P 律T

音高差は男声と女声で完全5度である<sup>40</sup>。

179 五尺手拭 (徳之島・井之川)

ソ ド レ ミ ソ ラ ド  
 完全4度 長2度 長2度 短3度 長2度 短3度  
 律P 律T

音高差は男声と女声で完全5度である。

180 であんだらこ (徳之島・井之川)

シ レ ミ ソ ラ シ レ  
 短3度 長2度 短3度 長2度 長2度 短3度  
 律P 律T

音高差は男声と女声で1オクターヴである<sup>41</sup>。

181 とうゆみ (徳之島・井之川)

ソ ド レ ミ ソ ラ  
 完全4度 長2度 長2度 短3度 長2度  
 律変T 律変P

182 徳のさんぐわ岳 (徳之島・井之川)

楽譜掲載なし。

39 日本放送協会編：285頁。

40 日本放送協会編：289頁。

41 日本放送協会編：294頁。







民謡音階の変種：なし

ペンタコルド型

律音階：136 (付随旋律), 140, 184 (女)

律音階の変種：123 (一部), 130 (一部), 133 (元歌の一部), 137 (付随旋律), 151, 158,  
175 (元歌の女), 189 (男)

民謡音階：なし

民謡音階の変種：188 (女)

ブラガル旋法型

律音階：108, 112, 115 (元歌), 119, 125 (一部), 128, 142 (柳葉でする歌), 145, 160

律音階の変種：111, 113, 114, 115 (花染), 116, 118 (元歌), 118 (芦花部一番),  
118 (うんにゃだる), 120, 123 (一部), 126, 135, 136 (元歌), 139, 144,  
146, 149, 152, 181

民謡音階：133 (元歌の一部), 142 (柳葉でする歌) 177, 187

民謡音階の変種：148

正格旋法型

律音階：131, 138, 142 (元歌), 143, 155, 159, 170, 171, 179, 180

律音階の変種：121, 133 (天のひらま主), 157, 183

民謡音階：161, 163, 175 (元歌の男), 186 (男), 190

民謡音階の変種：147, 188 (男)

広音域型

律音階 (T P T型)：141, 150, 164, 168, 178

律音階 (P T P型)：なし

律音階の変種 (T P T型)：127, 130, 172

律音階の変種 (P T P型)：165

民謡音階：なし

民謡音階の変種：なし

#### 4. 考察

以上の分析の結果、八月踊り歌は、座興歌・遊び歌に比べ、1オクターヴ半未満の声域で歌われている場合が圧倒的に多く、三味線の本調子であるT P T型の調弦音程との関係性を見出すことが困難であるかのように見える。しかし、わずかながらの例であるが広音域型の律音階と、律音階の変種においてT P T型がみられることは、本調子の調弦音程との関係性を示唆しているのかもしれない。

また、低音域にテトラコルドをもつブラガル旋法型の律音階、律音階の変種が、それぞれ男女の完全4度の音高差で重なれば、当然、広音域型のT P T型と音域は同じである。以下に両音階で例を示す。

## 108 ねんごろじょ (笠利・佐仁)

男：レ	ミ	ソ	ラ	ド	レ	
	律T			律P		
女：		ソ	ラ	ド	レ	ファ ソ
	完全4度		律T		律P	
	T			P		T

## 111 祝いつけ (笠利・佐仁)

男：ド	レ	ファ	ソ	ラ	ド	
	律変T			律変P		
女：		ファ	ソ	シ <sup>b</sup>	ド	レ ファ
	完全4度		律変T		律変P	
	T			P		T

音階は同一でも、5音音階のなかに共通の構成音が4音あることでTPT型とするのは牽強附会の感があるが、作業歌等、他の曲種を分析・検討することで、TPT型が三味線の調弦音程と関係性があるのか、引き続き今後の課題としたい。

また、特筆すべきは、低音域にペンタコルドをもつ正格旋法型において、男女の音高差が完全4度のものは皆無であったことである。八月踊り歌における男女の完全4度という音高差は、三味線の第1弦と第2弦の音程関係と同一であり、また多くみられる跳躍進行の旋律型である<sup>44</sup>。小泉は律音階を正格旋法型で説明したが、低音域にテトラコルドをもつブラガル旋法型と、広音域型でいえばTPT型が奄美諸島北部において主流の旋律構造であると解釈できるのではないだろうか。

## 参考文献・資料

蒲生郷昭：「奄美民謡における三味線について」，

(東洋音楽学会編：『創立三十周年記念 日本・東洋音楽論考』，音楽之友社)，1969年。

久万田晋：「沖縄・奄美における三線の広がり」，

(田中悠美子ほか編著：『まるごと三味線の本』，青弓社)，2009年。

小泉文夫：『日本伝統音楽の研究1 民謡研究の方法と音階の基本構造』，音楽之友社，1958年。

小島美子：「日本の音楽文化圏における奄美音楽の位置」，

(九学会連合奄美調査委員会編：『奄美 自然・社会・文化』，弘文堂)，1982年。

東京芸術大学民族音楽ゼミナール編：

『奄美の遊び歌楽譜集 日本民謡大観(沖縄 奄美) 奄美諸島篇 補遺』，日本放送出版協会，1995年。

西元久明：「奄美諸島北部の民謡における三味線の調弦の音程を枠にした音階構造」，

(鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科：『地域政策科学研究』 第6号)，2009年。

日本放送協会編：『日本民謡大観(沖縄 奄美) 奄美諸島篇』，日本放送出版協会，1993年。

南日本新聞社：『奄美復帰50年企画 島唄の風景』，南日本新聞社，2003年。

44 小島美子：314頁。